

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都産業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトサンギョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F126310107500
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	京都府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	基礎特別研究
	学部・研究科等名	総合生命科学部
	担当教職員名・役職	木村 成介教授 (生命科学部)
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	3
	受入企業等数	7
	受入企業等名	嵯峨地域農場づくり協議会 他6団体
	インターンシップの分類	2.有給インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
1-3.上記回答内容に関する詳細	森林の再生に取り組む株式会社アドプランツコーポレーションと協働して、嵯峨野地域での竹林整備や米作りに取り組む。また広沢小学校の3年生の総合的な学習の時間に開催された生き物調査(自然観察会)にも協力した。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	9.その他
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	当該科目は必修科目であるが、インターンシップについては、必須ではない。
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細	当該科目は必修科目であるが、インターンシップについては、必須ではない。	
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている

要素③		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
		2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	事前学習では、基礎的なマナーや情報倫理についての研修を行った。また、学外での実習（森林整備活動）などが多くなるため、安全管理について丁寧に指導した。 実際の活動を始める前に、楽しみなこと、不安なこと、やりたいことなどを学生同士で話し合い、今後の活動についての見通しや考えを学生の間で共有することで、課題解決にチームとして取り組む準備を整えた。また、教育効果の指標とするため、知的好奇心・アサーション、批判的思考態度、生涯学習意欲、特性的自己効力感に着目した質問紙調査（心理測定尺度）を実習前後に実施した。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	事後学習では、本プログラムに係る活動を振り返り、学生自身に自らの成長を実感してもらうため、協力企業や関係者をお招きして、成果報告会を開催。また、教育効果測定のための実習後の質問紙調査（自由記述式および心理測定尺度）を実施した。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	教職員が学生と面談を行い、事前学習の際に設定したインターンシップ中の目標達成に向けた指導を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	実習前後の質問紙調査（心理測定尺度）を実習前後に実施。
	4-3.上記回答内容に関する詳細	教育効果の指標とするため、知的好奇心・アサーション、批判的思考態度、生涯学習意欲、特性的自己効力感に着目した質問紙調査（心理測定尺度）を実習前後に実施。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他

要素⑤	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	10月から6月までの9 ヶ月の期間、各企業とともに、3名の学生 に対して実施した。
	5-3.上記回答内容に関する詳細	プログラムの期間は9 ヶ月間とし、期間中、企業訪問や森林整備などの実習を月に数回程度行う。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
6-3.上記回答内容に関する詳細	本プログラムでは、学生が恒常的に人手の足りない森林整備に就業体験の形で参加し、課題の解決策を提案・実施することで、アドプランツや地域（コミュニティー）に貢献できるよう努めている。	
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://ksu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=10425&item_no=1&page_id=13&block_id=21 https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20201102_400n_coop.html	
問い合わせ先	大学等名	京都産業大学
	担当部署名	生命科学部事務室
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	075-705-1466
	メールアドレス	seimei-jim@atar.kyoto-su.ac.jp